



第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／山本 直 山口県阿武町教育委員会 社会教育主事
安藤 能之 福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「朝活」と「プレゼンサークル」で繋がり、高め合い、実践に踏み出す
～社会人サークルが目指す生涯教育・まちづくり活動の理念と方法～ 13:35~14:05

大谷 瑛美(熊本県熊本市) くまかつ!主宰・熊本プレゼンサークル 代表

「くまかつ!」と「熊本プレゼンサークル」は、いずれも2013年より熊本市内にて活動している社会人サークルである。「くまかつ!」の活動の中心は朝活で、毎週月曜日の朝、出勤前の一時間を利用してセミナーのシェアや読書会、英会話の勉強等を行っている。「熊本プレゼンサークル」は、参加者全員が6分間程度のプレゼンテーションをし、それについてお互いにアドバイスをし合ったりディスカッションをするなどして、プレゼンテーションスキルを高めつつ交流をはかっている。いずれの活動も、実践を通して参加者同士の繋がりを強め、新たな活動を生み出しながら熊本を「盛り上げる」契機となっている。

2 愛媛のおやじ井戸端会議から全国大会の開催まで
～「おやじの会」が作り出す人的ネットワークと地域活動～ 14:10~14:40

佐川 良(愛媛県松山市) 愛媛のおやじ井戸端会議 会長

「愛媛のおやじ井戸端会議」は、愛媛県内のおやじの会の連合会で、平成24年に発足した。同年、宮城で行われた第11回全国おやじサミットin宮城に参加、そこで全国サミット開催に名乗りを上げ、27年には第13回全国おやじサミットin愛媛を成功させた。目的は、住み良い地域づくり、子ども達の健全育成、おやじの居場所づくりと人的交流の促進などである。大会などの特別活動については資金調達の工夫をするが、日常活動の予算のない純然たる手弁当の会である。会を重ねるに従って、各地域でおやじ達が個々に動き始め、祭りなどの地域行事、町内会行事などに積極的に参加している。

ティータイム 14:40~15:05

3 「パートナーデー」の啓発として、公募の「一言メッセージ」を組み合わせた
「結い」の会の男女共同参画への挑戦 15:05~15:35

草場 真智子(佐賀県佐賀市) 佐賀市男女共同参画ネットワーク「結い」 会長

2/14はバレンタインデー、3/14はホワイトデー、「結い」の会では、佐賀市が制定した4・14パートナーデーにちなんで、「一言メッセージ」を公募する。事業はすでに10回を数え、その募集、審査、表彰、広報の過程は、市内すべての小中学校を巻き込み、多くの地域企業の協賛を得て実施し、優秀作品の発表を通して、市民の男女共同参画意識に切り込んでいる。メッセージの選考は、「子どもの部」と「大人の部」の2部構成で審査を行ない、優秀作品には、何十もの協賛企業から企業名をかぶせた賞が与えられる仕組みにして、Win-Winの関係を創出している。また、優秀作品を出せなかった学校等には、「結い賞」、「学校賞」などを設けて応募意欲を削がない工夫をしている。

4 子どもがきらめく、地域主体の交流・克服体験活動の展開 15:40~16:10

貞苅 えり子(福岡県広川町) 広川町教育委員会生涯学習係 一般職非常勤職員

平成14年度から町内小学校で「土曜教室」を実施。その後、各校区の学校・家庭・地域連携推進会議との協体制度を基盤にして、運営体制と指導体制を構築し、全ての町民が参加できる「土曜教室」を実施。子ども達を地域の目で見守りながら、子ども達がのびのびと遊び、学ぶことのできる場の充実を図った。事業の進化とともに、地域が育む力を知・徳・体の視点から焦点化し、生きる力を下支えする目的を明確にし、学習・交流・克服の3つの体験活動を設定した。具体的な中身は、学習支援に加えて、パソコン教室、料理教室、絵画教室、ファミリースポーツ、通学合宿などで、活動の重点は地域主体による教育の支援体制を組織化することにおいた。その結果、子ども達は意欲的に活動に取り組み、落ち着いた態度で学習したり、仲間や地域の人との交流を深めたり、課題を克服して自分達で活動したりすることができるようになった。